

第三者評価結果

事業所名：にじいろ保育園古淵

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・理念、方針、目標等に基づき、保育指針を踏まえ、園長、主任、リーダーが中心になり編成する仕組みがあり、年度末に自己評価をし、次年度に向けての策定をしている。</p> <p>・法人統一の全体的な計画をもとに園にあった環境にあわせ、園長、主任で話し合い、リーダーが毎月の乳幼児会議での反省、課題を踏まえ子どもの状況に合わせて作成している。全体的な計画をもとに年度初めに各クラスにおいて年間指導計画を作成し職員会議で共有している。各クラスの毎月のねらいについても毎月共有し共通理解にむけて取り組んでいる。</p>	
<p>A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開</p>	a
<p>【A2】 A-1-(2)-①</p> <p>生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・保育室内の温度管理、除湿機、空気清浄機の設置による湿度調整、窓を開けて空気の入れ替えも常時行い、園内の清掃、消毒の徹底によって衛生管理に取り組んでいる。廊下、階段、手摺、トイレなどの消毒、玩具の消毒においてもチェック表を用いて管理している。</p> <p>・保育室の家具は木製の温かみのあるもので揃え、子どもの安全を考えた配置にしており、心地よく過ごすことのできる環境整備に努めている。落ち着けるスペース作りとしてパーテーションを使用したり、多目的室なども利用し場所を変えて気分転換できるように配慮している。睡眠時は3歳児クラスからコットを使用し、毎週土曜日には午睡用布団を乾燥機にかけるようにしている。</p>	
<p>【A3】 A-1-(2)-②</p> <p>一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・子どもが安心して毎日を過ごせるよう、一人ひとりに寄り添い、どんな時も自分を表現しやすい雰囲気を作り大切にされた対応に取り組んでいる。子どもに威圧感を与えないように、言葉づかいか態度に配慮し、一人ひとりのペースを大事にしてせかすような事がないように努めている。</p> <p>・乳幼児会議において、クラスの様子について話し合う機会を持ち、気になる事、課題などを検討し全体共有し、子どもの状況に合わせて対応できるようにしている。保護者の状況なども踏まえ、子どもをクラスだけでなく園全体で保育する意識を持つようにしている。</p>	
<p>【A4】 A-1-(2)-③</p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・「食事」「睡眠」「排泄」「清潔」「着脱」などの基本的な生活習慣を身につけることができるように、一人ひとりの発達状況に合わせた援助を心がけ、保護者と相談しながら無理なくすすめるようにしている。無理強いすることではなく、できたことを褒めて、自信とやる気に繋げるように援助している。</p> <p>・0歳児クラスから朝の会を行い絵本を読んだり、はいと返事をする事、いただきます、ごちそうさまなどの言葉を繰り返し伝えながら、生活の中で楽しく覚え習慣となるように援助している。1歳児は靴下や洋服を脱いだり着たり、食具の持ち方などを伝え、2歳児ではお気に入りのパンツをはけることを楽しみにしながらトイレトレーニングをはじめるなど、園と家庭での子どもの様子を共有しながら取り組んでいる。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<コメント>	
<p>・保育室内は子どもが手に取りやすいように玩具や絵本を配置し、年齢に応じた遊びのコーナー作りによって好きな遊びに集中して取り組めるようにしている。子どもの遊びが広がるように折り紙、廃材など年齢に応じて様々な素材を準備し、継続できるよう時間の配慮をしたり飾って楽しめるようにしている。カスタネットなどの楽器遊びやリトミックも取り入れている。</p> <p>・天気の良い日は公園や園周辺へ散歩に出かけねらいに沿って外遊びを楽しめるようにしており、人数を考えて混雑を避け、距離のある公園まで出かけることもある。幼児になると昆虫や植物に興味を示す子どもが多く、地域の方から案内をもらい植物の展示会に出かけることも出ている。カブト虫の飼育では生命の大切さについて子どもたちが考えることができる機会にもなっている。</p>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・0歳児は、月齢による発達の差が大きい時期であるため、一人ひとりに合わせた保育の配慮をしている。情緒面の安定、関わり方を意識し愛着関係を構築できるようにしており、園長、主任も保育に入り対応できるようにしている。また、離乳食の進み具合も違いがあるため、栄養士を中心に保護者との連携を密にしている。</p> <p>・保育室内は食事と遊びのスペースをわけ、畳やマットが敷かれているスペースを広くとり、安全に自由に遊べるようにしており、生活リズムに合わせて午前寝をしたり、午後にも休めるように子どもの状況に合わせて対応している。玩具は発達に合わせて入れ替えを行い、手作り玩具も揃え、危険がないように見守りに努めている。</p>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・1歳児は、言葉での表現が難しく、友達を噛みついたり、叩いたりして感情をぶつけることもあるため、一人ひとりを把握し、仲立ちに入り友達関係の手助けをしている。月齢や発達による個人差も大きいので、席の工夫などにも配慮している。1歳後半から2歳にかけてのイヤイヤ期についても、発達に応じた子どもの成長過程であることを伝え保護者との連携を密にし見守るようにしている。</p> <p>・2歳児は、トイレトレーニングに個別に取り組んでおり中盤からオムツが取れ始める子どもも見られている。遊びにおいても自主的に友達と関わろうとしたり、気持の表現が上手になっていたりするので、保護者と子どもの様子を共有し丁寧な関わりができるようにしている。コロナ禍においては少なくなっているが、異年齢で交流する時間や、食育保育での調理職員との関わりも持てるように配慮している。</p>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・3歳児はできることが増えて自我も強くなるため、遊びの中で我慢や思いやりを学べるよう一人ひとりと関わりを多く持ち、子どもと一緒に保育を楽しめるようにしている。4歳児は一人遊びも楽しめるが集団遊びを多く取り入れて遊びの工夫をしながら援助している。5歳児は「何をしたい? どうする?」と子どもに問いかけ、自分達で決めていくように促している。幼児クラスでも連絡帳や直接の会話で子どもの姿や様子を伝え保護者との連携に努めている。</p> <p>・幼保小連絡会議での内容や小学校の取り組み等をクラスだよりで保護者に情報共有している。コロナ禍での開園のため、昨年より縁日ごっこ、(お祭りの経験がなく、本で見せるなどで知らせる)お店ごっこを行った。運動会では幼児人数が少なく、演目も限られてしまうが子どものやりたいこと、興味のあることに着目し、バルーン、ソーラン節組体操、などを披露し次年度につなげていくことを考えている。</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・園内はバリアフリー、エレベーター設置があり、身体に障害のある子どもの受け入れ環境は整備されている。</p> <p>・特別な配慮が必要な園児に対しては、個別支援計画を作成して保育にあたっており、法人から派遣される臨床心理士による巡回や療育センター担当者の見学などによって子どもの状況を共有し、またアドバイスを受けながら子どもが落ち着いて過ごすことができるよう環境を整備し、保育内容の配慮をしている。支援コーディネーター研修を受講し資格のある保育士もいるため、クラスでの過ごし方や子どもの遊びなどについての工夫を話し合い、全体共有できるようにしている。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p>	
<p>・早朝保育、延長保育時間は合同保育とし異年齢での合同保育時間としている。延長保育時間では、希望により補食と夕食（手作り）を提供している。在園時間が長くなることで疲れがでないように、絵本を読んだり塗り絵やカードゲームなど子どもの好きな遊びを用意して、一人ひとりと関わり静かに過ごすことができるように配慮している。 ・子どもの日中の様子などについては、登園時視診表に記入し口頭でも引継ぎを行い、遅番職員が保護者に伝えるようにしている。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p>	
<p>・全体的な計画の中に、小学校への円滑な接続、連携として記載があり、年間指導計画、月案に具体的なねらいを定め保育に落とし込んでいる。保育要録は園長責任の下、5歳児クラス担任が作成している。 ・幼保小連絡会議の情報をクラスだよりに載せて保護者に伝え共有できるようにしている。避難場所にもなっている小学校の体育館を借りて今年度は運動会を実施することができているが、コロナ禍での開園ということもあり、小学校との具体的な連携については今後の課題としている。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p>	
<p>・子どもの健康管理については、「看護マニュアル」の内容に沿って対応しており、怪我や体調悪化等は保護者連絡をし、怪我や受診の際は報告者を記入し本部に提出する仕組みがあり、職員間で共有している。コロナ禍においては、登園時に玄関で保護者と子どもの手指消毒、または手洗いと検温を実施し、視診表に記入している。手洗い指導などは各クラス担任が行っている。 ・SIDSについては、入園時面接で保護者に説明しており園内にはポスター掲示をして周知に努めている。午睡チェックは、0歳児は5分置き、1歳児と2歳児は10分置きにチェックしている。チェックでは、顔色確認、鼻と口に手を当て呼吸の確認、胸に手を当て呼吸の確認を行い、チェック欄にはチェックした者の氏名（イニシャル）を記載している。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p>	
<p>・毎月一回の身体測定、園医による内科健診、歯科検診を実施し、健康状態を「健康カード」に記入し保護者の確認印をもらっている。健康カードは確実に見てもらえるようにチェック表も作成している。健康診断、歯科検診の結果によって受診の必要がある場合などには個別に保護者に伝えるようにしている。また、毎月の保健だよりにおいて、子どもの健康や季節の注意事項、感染症などについて伝え保護者に注意を促している。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p>	
<p>・アレルギー児には、給食室と職員が連携し、事故が起こらないように細心の注意を払っている。アレルギー児専用の食器とプレート、給食とおやつを受け取り時は声に出して受け取り、サインをする仕組みがある。保育室ではアレルギー児を最初に配膳し、正職員が側に付くようにしている。保育室にはアレルギー対応フローの掲示があり、職員はどの園児が何のアレルギーなのかを把握できるようになっている。保護者にむけても、アレルギー児への対応方法を周知している。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園での毎日の給食を子どもが楽しく食べることができるように、個々の食べられる量や好き嫌いを把握し子どもへの声かけに配慮しながら促している。 ・ 食育を通して食べる事に関心が持てるよう工夫している。グリーンピースの鞘取り、トマト、オクラ、キュウリ、ピーマンなどの夏野菜の水やりから収穫までの栽培活動体験などを通して、食材に触れて身近に感じることができるようにし、収穫した野菜を給食に取り入れ提供することで嫌いな野菜も食べることができるなどの成果が見られている。離乳食ではつかみ食べがはじまると持ちやすく食材の大きさを工夫するなど栄養士と連携し子どもの様子を見ながら進めている。 ・ 食事についても保護者に家庭での様子や園での様子を共有し連携を密にしている。 	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社作成の献立を使用し2週サイクルでの提供をしており、1回目のメニューで進み具合がよくない場合などは会議で話し合い、味付けや形状などに工夫をして2回で食べやすくなるように取り組んでいる。季節感のある食材を使い、保護者からも、「家では絶対作らないから有り難いです」との声もきかれています。行事食では、可愛らしく型抜きなどを使用して行事にちなんだ食材や盛り付けなどの工夫がされており、子どもが喜んで食べることができるように取り組んでいる。 ・ 衛生管理はマニュアルに基づき、調理室において適切な衛生管理を行っている。コロナ禍においては、幼児クラスはパーテーションを使用して食事をし感染症拡大防止にも努めている。 	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>・乳児クラスは、毎日の連絡帳と送迎時の会話によって保護者と子どもの様子を共有できるようにしている。幼児クラスでは、送迎時の会話を中心であり、特別なことがあれば連絡帳で情報交換をしている。今日の保育について各クラスの活動内容を玄関に掲示することで、子どもとの会話にもつながるように配慮している。</p> <p>・各クラスで懇談会を実施し、年齢に応じた子どもの発達の様子やクラスの様子などを伝える機会としているが、コロナ禍において中止することもあるため、その場合は写真付きのお便りを配布し確認してもらっている。個人面談は保護者の希望に応じて平日だけでなく土曜日にも対応し、必ず記録を残している。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>・登降園時での挨拶や会話を大切にしており、保護者との信頼関係を築くことができるように心がけている。保護者からの相談には個人面談を行っており、子どもや保護者の様子から声をかけ面談を行う場合もあり、相談内容によっては園長が同席するなどの対応を行っている。</p> <p>・保護者の就労等の事情による保育時間の変更や急な土曜利用についても対応し保護者が安心して子育てができるように支援している。今年度は乳児クラス（1歳、2歳のみ）、幼児クラスを分けて保護者2名の参加も可能とし運動会を実施することができている。コロナ禍において中止しているが、保育参加なども再開に向けて検討している。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>・毎朝の健康視診の際に、体のチェックをしたり、子どもの様子の変化に気付いたりすることができるよう日頃から意識を高め留意しており、虐待等の早期発見と対応及び予防に取り組んでいる。気になることがあれば園長に報告し、マニュアルに沿って対応することを職員間で共有している。目立つ怪我やあざがあれば、首から上の場合は担任や園長が通院を促すようにしている。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>・保育の振り返りは毎日の保育日誌記入をしており、園長が確認している。保育士の自己評価は年2回実施し、園長面談を行い振り返りや次の目標を設定することができるように支援している。保育の振り返り、保育の自己評価は園全体の自己評価にも繋げるようにしている。</p> <p>・園内研修ではテーマを決めて、お互いの保育について学び合うことができる機会としており、アドバイスをし合い保育観を共有することで保育実践の改善や向上に努めている。今年度は、震災時にどの様に過ごしていたかという体験談を通じて、年齢や立場の違いによって様々な体験と違いがあることを共有し、学びにつなげることができている。</p>	